

# 高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行  
NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224  
滋賀県高島市安曇川町上小川1225-1  
藤樹書院・良知館内  
電話・FAX 0740 (32) 4156

「たかしまとうじゆかい」

副会長 三田村 治夫



「人様に迷惑をかけるなや」「うそつきは泥棒の始まりやで」

などと、我々の世代は親や祖父母から、ことある毎に戒められたものです。同様に毎朝、神棚と仏壇の前で手を合わせる習慣も身につきました。幼い時に刷り込まれたことは、生まれの川に戻ってくる鮭や、南国から毎春育った民家に戻ってくる燕のように、無意識のまま覚えていくのでしよう。こうしたところに、地域での生活体験や保育園や小学校でのふるさと教育の意義があるのだと思います。

しかし、今の子どもたちは、家庭や地域、学校で先のような戒めや体験・教える機会に恵まれなくなってきたように感じます。こうしたことを、私自身が若い世代や若い世代にきちんと伝えてきたのだろうかかと振り返ると、自信がありません。

過日、豊郷町資料館（旧豊郷小学校・ヴォーリズ建築）を訪ねました。当時としては他に類を見ない立派な校舎で、一九三七年に丸紅の

専務取締役であった古川鉄治郎氏の寄付によって建てられたものでした。古川氏は所謂近江商人として成功し、郷土の子どもたちのために尽くされたのでした。



旧豊郷小学校

その日ガイドしていたボランティアの方が、「この学校には、昔から二宮金次郎の像はないが、藤樹先生の像があった」とのことです。今も正面玄関に置かれています。以前の会報で紹介しましたように、日野町においても日野小学校や西大路小学校には藤樹像が設置され、その像は長い間、多くの子どもたちの成長を見守ってきました。このことが、豊郷町も日野町も、いずれも多くの近江商人を輩出し、『三方良し』を経営理念としてきたことに少なからず影響を与えたのではないかと考えられます。

高島でも藤樹先生の教えや生き方に影響を受けたと言われる偉人が少なくないと思われます。戦前の北京で悲惨な状況にあった中国人子女を救った清水安三先生、琵琶湖の洪水から沿岸の農民を救うために命がけ

で瀬田川の川さらい事業を成し遂げた藤本太郎兵衛親子三代（琵琶湖開発総合管理所・『ぼとり』職員のコラム）「近江の偉人」より）です。また、前に会報で寄稿いただいた「松本彦平氏」や「高島玄俊氏」は、藤樹先生との関わりを示す資料は残っていませんが、唯々我が身を省みず、世のため、人のために尽力されたその生き方には、安三先生や太郎兵衛親子三代に通じるものがあります。

偉人ではなくても、『馬方又左衛門』や『あかぎれこうやくの話』など藤樹先生にまつわる逸話の多くが、藤樹先生に秘められた『絶対的なやさしさ』として、四百年にわたって語り伝えられてきたように思います。それは、小川村近辺だけでなく、また一部の偉人だけでなく、高島の地域・高島の人々の中に「おかげさま」「おたがいさま」などと、周りの人に対して気遣い、思いやる精神が根付いてきたのではないかと推察します。

このように考えると、藤樹先生の生き方や教え、特に『絶対的なやさしさ』は、高島の子どもたちにとつて、生きていく上での「心のよりどころ」の一つとなると思います。これは、高島だからこそできる「次の世代に伝えられること」であり、高島藤樹会としてその一翼を担っていききたいものです。